

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3659794号
(P3659794)

(45) 発行日 平成17年6月15日(2005.6.15)

(24) 登録日 平成17年3月25日(2005.3.25)

(51) Int.Cl.⁷

E O 6 B 3/984

E O 6 B 1/62

F I

E O 6 B 3/984

B

E O 6 B 1/62

B

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平10-87255	(73) 特許権者	000001096
(22) 出願日	平成10年3月31日(1998.3.31)		倉敷紡績株式会社
(65) 公開番号	特開平11-280349		岡山県倉敷市本町7番1号
(43) 公開日	平成11年10月12日(1999.10.12)	(74) 代理人	100062144
審査請求日	平成15年3月12日(2003.3.12)		弁理士 青山 稔
		(74) 代理人	100079245
			弁理士 伊藤 晃
		(72) 発明者	平山 貴之
			大阪府大阪市中央区久太郎町2丁目4番3
			1号 倉敷紡績株式会社大阪本社内
		審査官	長島 和子
		(56) 参考文献	特開平10-068274(JP, A)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物の開口部内枠材の組立構造

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

2枚以上の側板(10)の各端縁どうしを互いに大略直交させ、かつ一方の側板の木端面を他方の側板の内側壁面に突き合わせて該突き合わせ部分をビスにて接続して枠体を形成し、建物の開口に挿入されて上記開口内に嵌め込まれる内枠材の組立構造において、

上記2枚以上の側板(10)は、上記開口内に上記枠体を挿入可能とする外側壁面と、上記枠体の開口端部周縁に相当する箇所該側板の上記外側壁面に大略直交して立設されたフランジ部(11)とを有しており、

上記木端面を上記内側壁面に突き合わせたときに互いに大略90°に屈曲して隣接する上記フランジ部(11)どうしの間に介設されてフランジ全体の角部を構成し、かつ上記隣接する上記フランジ部どうしを連結して上記ビスによる接続の前に上記側板の仮止めを行う連結部材(15)にて、上記枠体の組み付けを行うことを特徴とする、建物の開口部内枠材の組立構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、建物の開口部に取り付けられる内枠材の組立構造に係り、特に、開口端部周縁にフランジ部を有する内枠材の組立構造に関する。

【0002】

【従来の技術】

10

20

上述のような内枠材の組立構造では一般に、矩形枠材の４面の側壁を形成する各側板は、その一辺に沿って直角に起立延在するフランジ部を有している。これら側板を矩形に組み立てるとき、矩形開口の周囲に沿って四辺のフランジ部が連続して形成されるためには種々の工夫が必要である。例えば実開昭６１－２０１４８０号公報に開示された内枠材の組立構造では、図４～６に示すように、各側板３０のフランジ部３１は、その一方端が側板３０の一方端縁よりも長く延ばされており、他方端は側板のもう一方の端縁と同じ面で真っすぐ止められている。この延長フランジ部３２側の端縁が、図５に示すように隣接する側板３０の真っすぐな端縁に接続される。そして４枚の側板が組み立てられて図６に示すような枠体に形成される。

【０００３】

10

【発明が解決しようとする課題】

通常、この側板は、フランジ部と一体に樹脂の押し出し成形で製作されるので、フランジ部の一方端を長く延ばした状態は、押し出し成形後の加工でその延長分の幅寸法で側板を切除することによって作られており、その切除を現場加工により行う場合は、作業が煩わしいばかりか、組み立てられた枠体のフランジ部の仕上がりの美醜が作業者の技量の熟練度によって大きく異なり、醜くなる恐れがある。

【０００４】

本発明は上述のごとき従来の技術的課題に鑑み、これを有効に解決すべく創案されたものである。したがって本発明の目的は、現場加工が必要なく組み立て作業が簡単であって、作業者の熟練度に関係なく美しく仕上げることのできる内枠材の組立構造を提供すること

20

【０００５】

【課題を解決するための手段】

本発明に係る建物の開口部内枠材の組立構造は、上述のごとき従来技術の課題を解決し、その目的を達成するために以下のような構成を備えている。即ち、２枚以上の側板の各端縁どうしを互いに大略直交させ、かつ一方の側板の木端面を他方の側板の内側壁面に突き合わせて該突き合わせ部分をビスにて接続して枠体を形成し、建物の開口に挿入されて上記開口内に嵌め込まれる内枠材の組立構造において、

上記２枚以上の側板は、上記開口内に上記枠体を挿入可能とする外側壁面と、上記枠体の開口端部周縁に相当する箇所該側板の上記外側壁面に大略直交して立設されたフランジ部とを有しており、

30

上記木端面を上記内側壁面に突き合わせたときに互いに大略９０°に屈曲して隣接する上記フランジ部どうしの間に介設されてフランジ全体の角部を構成し、かつ上記隣接する上記フランジ部どうしを連結して上記ビスによる接続の前に上記側板の仮止めを行う連結部材にて、上記枠体の組み付けを行うことを特徴とする。

【０００６】

【発明の実施形態】

本発明に係る建物の開口部内枠材の組立構造を、ユニットバスの窓枠を例として以下に説明する。窓枠は４枚の側板１０を矩形に組み立てて構成され、図１に示すように窓枠用開口内に挿入される。側板１０はそのフランジ部１１と一体的にプラスチック材の押し出し成形によって製作され、一定断面の長尺物として形成され、開口の大きさに合わせて適当な長さに切断してから組み立てられる。外壁２０の開口にはサッシ窓２１が嵌め込まれており、窓枠はサッシ窓２１の部屋内側の開口枠となる。

40

【０００７】

ユニットバス内壁１２面には窓枠のフランジ部１１が重なって窓枠用開口の部屋内側切り口が覆い隠され、所謂回り縁となって開口の見切りがなされる。２枚の側板１０、１０どうしの組み付けは、図２に示すように、一方の側板１０の木端面が他方の側板１０の内側壁面に、その端縁に沿って突き合わせられ、その外側からビス１３等で締め付け固定される。

【０００８】

50

一方、フランジ部 11 は、窓枠が開口内に挿入された状態では浴室壁面に面して表側には見えない側の面に、その長手方向に沿って溝 14 が形成されている。フランジ部 11 はそれぞれ側板 10 と同じ長さで形成されているので、側板 10、10 同士が図 2 のように組み付けられるとき、フランジ部 11 の四隅は切り欠かれてしまう。

【0009】

図 3 は、この切り欠かれる四隅に連結部材 15 が嵌め込まれた状態を示している。連結部材 15 は、フランジ部 11 の四隅の矩形に相当する長方形を呈していて表に出て化粧面となる部分 16 と、この化粧面部分から互いに直交する方向へ延出された脚部 17、17 とを有しており、この脚部 17、17 は、フランジ部 11 の背面側の溝 14 内に挿入されることによって、隣り合うフランジ部 11 同士を連結する。連結部材 15 の脚部 17 は、溝 14 内に挿入されてからは容易に抜けないように、抜け防止爪 18 が溝 14 の幅方向へ突出している。図 3 に示すように、正面側から見るとフランジ部 11 は各隅部で互いに連続して窓枠開口の回り縁を構成する。

10

【0010】

連結部材 15 の組み付けは、側板 10、10 同士のビス止めの前に行うのが好都合であり、このようにビス止め前に組み付けておけば、組み上げられた枠体は、そのままである程度の自立性を持って仮留め状態となり、ビスの締め込み作業が容易に行える。

【0011】

なお、上に例示した実施形態は、代表的な矩形の窓枠用として 4 枚の側板を矩形に組み立てて内枠材としたが、例えば窓の下縁に相当する箇所は別に棚状の板材が取り付けられて、3 枚の側板を「コ」字状に組み立てて窓の上縁および両側縁に嵌め込んでもよい。あるいは、2 枚の側板を大略 90° に組み立てて三角窓の 2 辺に嵌め込んでもよい。また、建物の開口は窓のような貫通開口に限らず、例えば壁面から壁内に引き込んだ引き込み棚のように凹部開口であってもよい。

20

【0012】

【発明の効果】

上述のように連結部材を用いれば、各側板は単純に必要な長さにだけ切断して組み立てるだけでよく、作業は単純で高度な熟練技術を必要とせず、しかも仕上がりは美しく仕上がる。

【図面の簡単な説明】

30

【図 1】 本発明に係る内枠材の組立構造をユニットバスの窓枠の例で示す断面図である。

【図 2】 本発明に係る内枠材の組立構造を組み立て前の状態で示す部分斜視図である。

【図 3】 本発明に係る内枠材の組立構造を組み立て後の状態で示す部分正面図である。

【図 4】 従来技術による内枠材の組立構造における側板の加工の仕方を示す斜視図である。

【図 5】 図 4 の側板の組み立て方を示す斜視図である。

【図 6】 従来技術により組み立てられた内枠材を示す斜視図である。

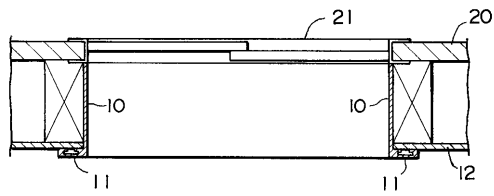
【符号の説明】

- 10 側板
- 11 フランジ部
- 12 ユニットバス内壁
- 13 ビス
- 14 溝
- 15 連結部材
- 16 化粧面部分
- 17 脚部
- 18 抜け防止爪
- 20 外壁
- 21 サッシ窓

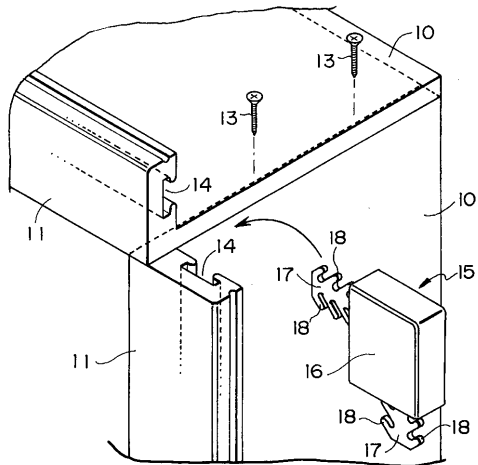
40

50

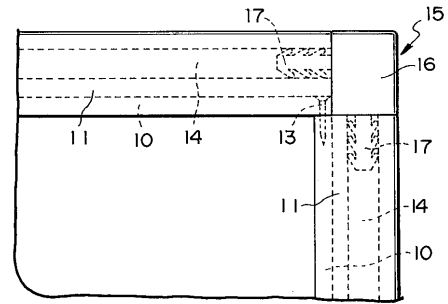
【図 1】



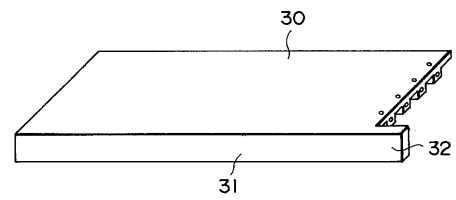
【図 2】



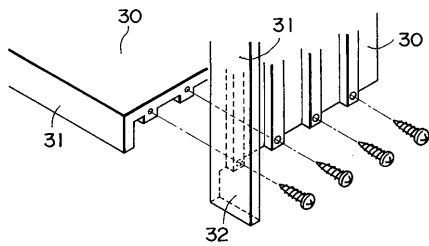
【図 3】



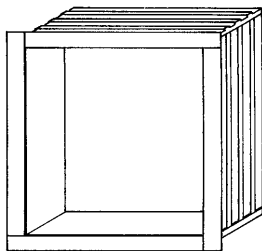
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, D B 名)

E06B 3/96-3/99

E06B 1/62